

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する

つながる通信

第21号

発行日 2020年6月30日(火)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F(CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、t-net@clc-japan.comまでご連絡をお願いいたします。

食堂は休止でも、弁当で地域のつながりを広げる

大阪府東大阪市の「くさか つながる食堂」は、1年ほど前から、さまざまな人がつながれる場に、と高齢者施設のスペースを利用して食堂を開催してきました。

「くさか つながる食堂」は、発達障害の親の会を母体に立ち上がった児童デイサービス、校区福祉委員会、東大阪市政協の地域担当とコミュニティソーシャルワーカー(CSW)が会した際に、「ひとり親家庭で食事に十分な時間がかけられない」「母親が働いているため、手づくりの食事を食べる機会が減っている」「孤食の子どもがいる」といった課題に、誰もが来られる食事の場をつくるう、と始まりました。発達障害児・者のサークルでは、親子ともに発達障害の傾向があり普段の暮らしが気にかかる家庭が、子育て中の母親のサークルでは子ども

くさか つながる食堂(大阪府東大阪市)

もの成長への不安が、高齢者のサークルでは元気な高齢者が「地域のために何かしたい」という思いがそれぞれにありました。そこで、それぞれが地域に声をかけ、一緒に食堂を開催し、一緒にごはんを食べることで、地域で顔の見える関係をつくっています。年に2〜3回、不定期に開催をしつつ、運営する人たちのつながりの場ともなっていました。

新型コロナウイルスの感染防止のため、会場となる高齢者施設の使用や、密が想定される「集まり、一緒に食事をすること」が難しくなりました。ですが、休校にともない、家庭での食事が心配な親子もいます。そこで、家庭での食事の一助になればと、4月21日から週1回、お弁当の配達を始めました。

お弁当は、10人ほどのボランティアがつくり、配達します。利用したい人は事

前に申し込み、子ども100円、大人300円で利用ができます。口コミのほか、LINEで情報を提供するサークルがあったり、特に気になる人には個別に声かけをして周知しています。配達に行くことで、ボランティアは「今まで気づかなかった家庭の様子が見えてきた」と話します。そこで気になったことはCSWなどに伝え、相談支援につないでいます。重要性が見えてきたため、給食再開後も実施日を土曜日にして、続けています。

あるとき、また別のボランティアがお弁当づくりに向かうと、近所のカレー店から「どこ行くの?」と声をかけられたといいます。弁当配達の取り組みを話すと、「そんなに素敵なことをしているなら、できることを協力したい」と申し出があり、カレー店のカレーが提供される日もあります。ほかに、家庭菜園で収穫した野菜を持ってきてくれる人もいます。

「くさか つながる食堂」には、おにぎりマイスターの78歳の女性がいます。

この女性、松浦妙子さんは、地域のいろいろな催しのボランティアとして参加する行動派。ですが、新型コロナウイルスの影響で、それらの催しがのきなみ中止となり、外出する機会が減っていました。そんな折、「くさか つながる食堂」からの応援依頼をされた松浦さんは、「おにぎりの専門職でやるわ」と、手伝っています。松浦さんのおにぎりには、「おにぎりマイスターのおにぎり」として、評判です。

ボランティアスタッフからは、「自分がつくったものを喜んで食べてくれる子どもたちがいると思うと楽しいし、うれしい気持ちになる」「届けたときに子どもやお母さんが嬉しそうにありがとっと言ってくれて、配達をして本当によかったと思う」との声が届いています。

つながるポイント

- ・弁当の配達をおして、家庭内の気になることをキャッチ。専門職に伝え、必要に応じた支援への媒介をする
- ・それぞれができることを持ち寄り、新たな関わりの輪を広げていく



ボランティアの手づくりのお弁当。
手前の女性がおにぎりマイスターの松浦さん



カレーを持ってきてくれたカレー店の店主
(左から3人目) とともに



おにぎりマイスターのおにぎり、カレー店のカレー。
地域のプロたちの思いが詰まったお弁当

アンケートと訪問取材で、住民のつながる工夫を知り、広める

太田市では、子どもから高齢者まで誰もが過ごせる居場所として「お茶の間カフェ」を地域住民が週2回、11か所で開催していますが、3月から開催を自粛しています。カフェを運営する地域住民たちは、会えないなかでの地域の暮らしぶりにアンテナを立てて、できることに取

り組んでいます。葦川地区の石川文子さんは、「団地に住む人は、誰かのお宅でお茶飲みをしているみたい」と安心する一方で、移動手段のない一人暮らし世帯が孤立しないように電話をかけ、ついでのときに訪問をして、気にかけています。ときには、お茶の間カフェの友だち



なごみの会では、感染予防対策をとって集いを再開



右から、葦川地区の石川文子さん、カフェ利用者の原島さん、カフェサポーターの鋒之原さん

太田市社会福祉協議会（群馬県）

を誘って一緒に訪ね、双方から再会を喜ばれることも。3密に配慮しながら、少人数で顔が見える機会をつくっています。

また、大島二区の住民がおしゃべりやカラオケを週1回楽しむ「なごみの会」は、部屋の窓を全開にして、一定の距離を保って椅子を配置するなどの感染予防対策をとり、集いを再開しました。この日は10人が集まり、大いに盛り上がり笑っていました。メンバーは、休止中でも電話やメールで連絡を取り合い、マスクをプレゼントしたり、そのお礼に布マスクをもらったりと、コロナに負けないつながりがあつたと話します。

これらの取り組みは、太田市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが、12ある第2層協議体のメンバー219人にアンケートをとり、実際に現地を訪ねて把握。アンケート用紙を郵送する際には、本紙「つながる通信」を印刷して同封。「通信が参考になった。うちの地域でも参加者に絵手紙を送りたいと思う」「自粛だからと、何もしてこなかった自分を反省した。マネできることから取り組みたい」などの声も寄せられました。地域住民によるつながる工夫を紹介する太田市版「つながる通信」も創刊しました。

太田版つながる通信



太田市社会福祉協議会の「つながる通信」は下記より閲覧できます。

<http://otashakyo.jp/publicity/tsunagaru/>

つながるポイント

- ・ 会が中止の間も、電話やついでの訪問、メールなどで連絡を取り合う
- ・ 地域住民によるつながる工夫を通信で発行し、広める

先日は、ある地区の協議体から要望を受けて、住民向けにLINEのテレビ電話の使い方を講習会を生活支援コーディネーターが行いました。冬の感染症流行時期を見据えて、つながり続けるために、いまでできる準備を進めています。

編集後記

先日、久しぶりに友人と会いました。「3密」に配慮し、お互いが気持ちよくどう工夫が求められても、実際に顔を見ておしゃべりすることは、何にも代えがたい貴重な時間です。

「つながりを切らない」情報・交流ネットワークで最新情報をチェック!

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

<https://www.t-net.online/>



<各地の実践もお寄せください!>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただきます。情報は、E-mail: t-net@clc-japan.com、fax: 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ!

